

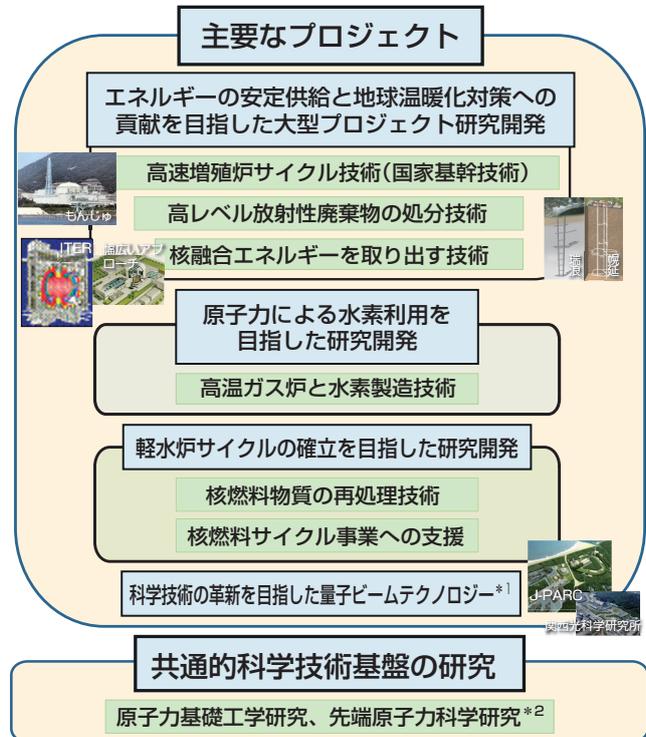
地球環境問題の解決に貢献する研究開発

原子力発電は発電時に温室効果ガスである二酸化炭素をほとんど排出しません。近年、エネルギー安定供給の観点のみならず、地球環境問題の解決の観点からも、原子力エネルギーに対する期待が高まっています。

原子力機構は、エネルギーの安定供給を目指した原子力システムの大型プロジェクト研究開発、原子力による水素利用を目指した研究開発、軽水炉サイクルの確立を目指した研究開発、科学技術の革新を目指した量子ビームテクノロジーに関する研究開発などを行っています。また、原子力研究開発の科学技術基盤を維持・強化し、新たな原子力利用技術を創出するために、共通的科学技術の基盤となる研究も行っています。これらの研究開発は地球環境問題の解決に貢献するものです。

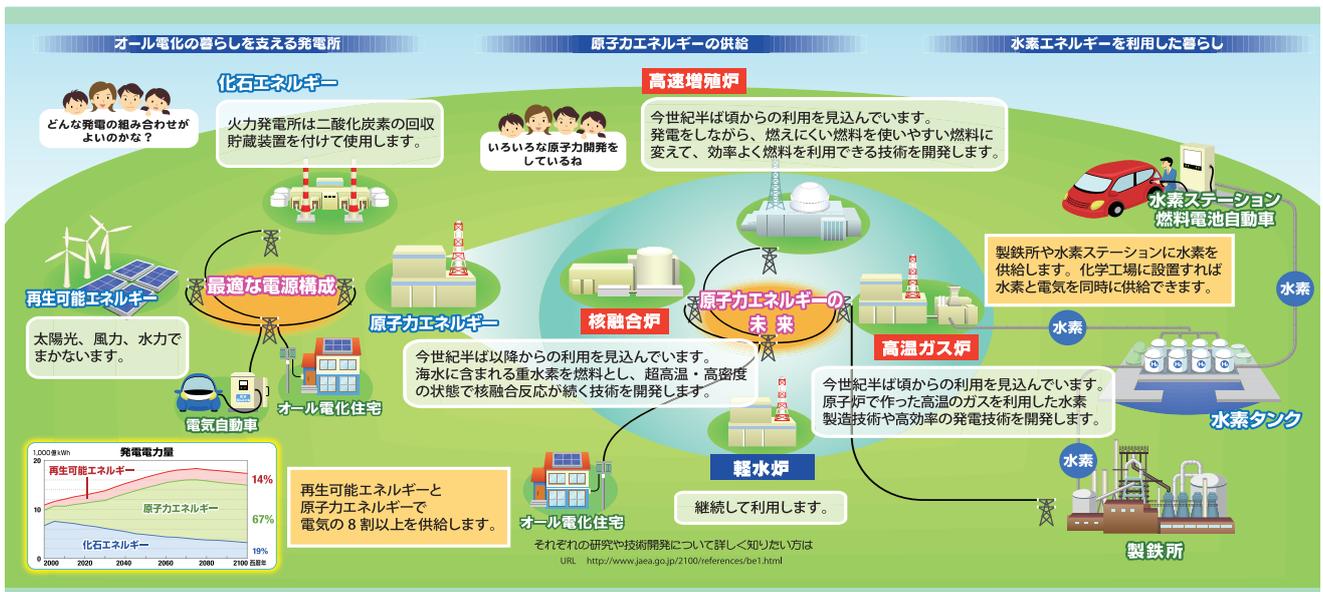
原子力機構が発表した「2100年原子力ビジョンー低炭素社会への提言ー」¹⁾の中では、研究開発を進めている高速増殖炉、核融合炉、高温ガス炉などを利用した「エネルギーを安定に供給できる社会」、「二酸化炭素排出を削減できる社会」を描いています。

地球環境問題の解決に貢献する研究開発



- *1 ・環境・エネルギーへの貢献：燃料電池用高耐久性電解質膜の開発、環境汚染物質の無害化、排気ガス低減触媒の開発、環境に優しいプラスチックの開発、海中ウラン回収技術の研究など
 ・環境問題の解決に役立つ物質・材料への貢献：超伝導材料の開発、水素吸蔵合金の開発など
- *2 ・低燃費エンジンの開発への貢献、土壌の炭素貯留能力予測、汚染水の浄化と有価物回収技術など

「2100年原子力ビジョンー低炭素社会への提言ー」¹⁾の示した社会



1) 原子力機構発表：2008年10月 <http://www.jaea.go.jp/2100/2100html>